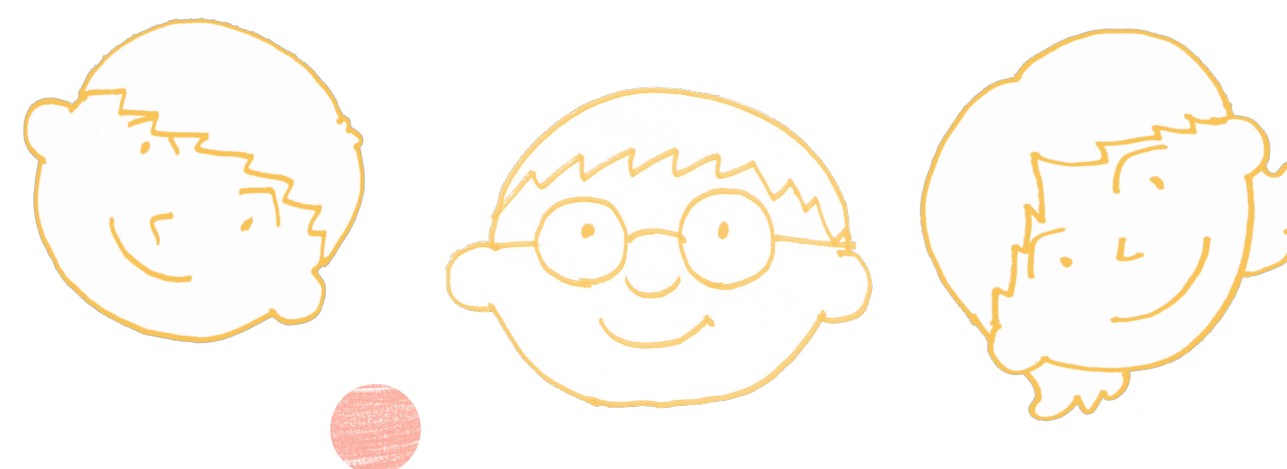




地域学校協働活動

地域と学校をつなぐ コーディネーター 応援 BOOK



■お問い合わせ先

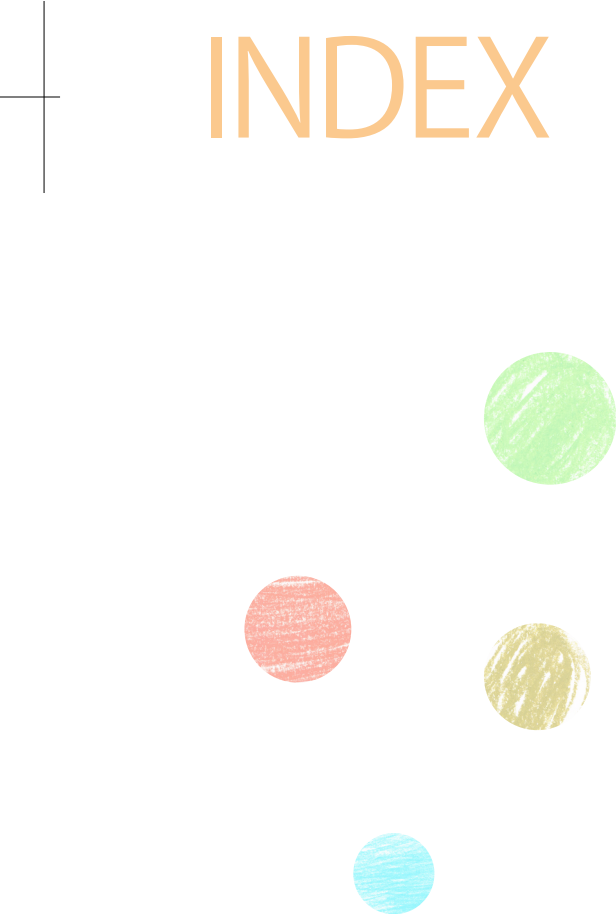
特定非営利活動法人

まなびのたね ネットワーク

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町1丁目6-22 シャンボール一番町704

Tel : 022-707-0122 Fax : 022-707-0497

E-mail : info@manabinotane.net URL : <http://www.manabinotane.net/>



はじめに	P02
地域学校協働活動が、なぜ必要なの？	P03
地域学校協働活動推進員って？	P04
地域学校協働活動で、それぞれいいことは？	P05
統括コーディネーターって、どんな役割？	P07
地域コーディネーターって、どんな役割	P08
地域コーディネーターの具体的な仕事ってなんだろう？	P09
先生に連絡するには、いつ、どうしたらいい？	P11
新年度、スタートが大切！コーディネーターとして何をすればいい？	P13
地域コーディネーターに役立つスキルって何だろう？	P15
協力してくれるボランティアをどうやって探す？	P17
ボランティアが気持ちよく活動するために どんな準備が必要？	P19
もっとボランティアが活躍するには？	P21
地域から学校への要望 「こんな事したい」と言われたら？	P23
事例紹介1 仙台市 小1生活・学習サポーター	P25
事例紹介2 登米市のキャリアセミナー	P27
事例紹介3 たくさんのボランティアが活躍しています！	P29
現役コーディネーター座談会	P31
地域学校協働活動推進までの動き	P33

はじめに

学校と地域をつなぐ、コーディネーターによる コーディネーターのための応援BOOK作成にあたって

子供たちが、自分らしく幸せに生きるためには
そして、変化が激しく予測できないこれからの社会を生きるためには
私たち大人は、何を、どのようにすればいいのでしょうか？

その答えの一つが、家庭・地域・学校が連携・協働し、社会全体で子供たちを育てることです。
文部科学省では、そうした活動を「地域学校協働活動」として推進しています。
実は、宮城県では平成17年度から「みやぎらしい協働教育推進事業」として、家庭・地域と
学校の協働の取組みを進め、地域と学校をつなぐ仕組づくりを促してきました。平成29年度
からは「宮城県協働教育推進総合事業」として各市町村における地域と学校の連携・協働体
制の一掃の強化と取組の促進を図っています。

地域学校協働活動を推進するにあたり、コーディネーター役となる地域学校協働活動推進
員がカギとなることは間違いありません。平成29年3月に改正された社会教育法ではこの地
域学校協働活動推進員を教育委員会が委嘱することができるようになり、法律に位置づけら
れた確たる立場での活動が行えるようになりました。

これからはコーディネーターが地域と学校をつなぎながら進める「学校支援活動」の充実
が更に重要であると考えています。私たちは、地域学校協働活動で目指す、子供の成長を軸
にして自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「学校を核とした地域づくり」には、「学
校支援活動」の充実が重要であると考えています。

この応援 BOOK は、東日本大震災後、地域と学校をつなぐコーディネーターとして、子供た
ちの笑顔を増やしてきた宮城県内の実践力のあるメンバーが集まり、ワーキンググループを立
ち上げ、作成しました。コーディネーターとして活動し経験してきたからこそ伝えられることや、
活動のヒントになることがあるのではと思っています。

子供たちの笑顔と学びと成長を願う仲間に向けて、この冊子が皆さんの活動の後押しにな
ることを願っています。

平成 30 年 3 月

特定非営利活動法人
まなびのたね ネットワーク 代表理事 伊勢みゆき

※ この冊子は、地域学校協働活動の中でも特に「学校支援活動」のコーディネーター向けに作成しております。

地域学校協働活動が、 なぜ、必要なの？

これまでも学校支援地域本部や
協働教育を行ってきたけど…

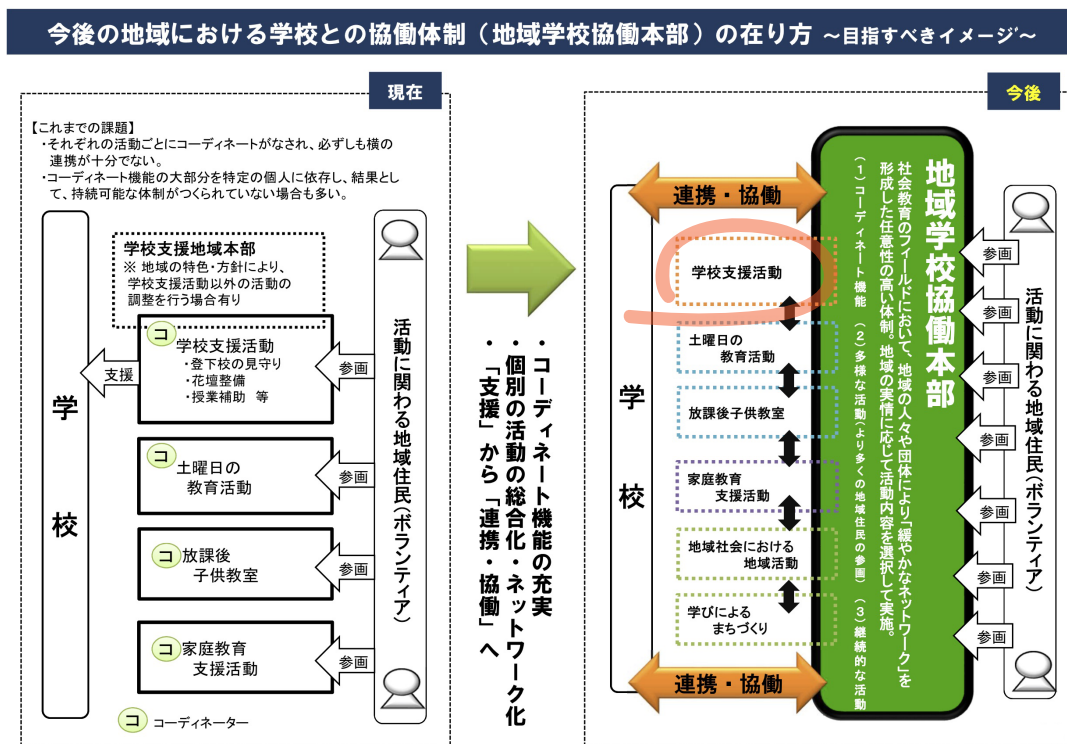
地域と学校がつながり、社会全体で子供たちを育てる必要性

未来を担う子供達は「地域の宝」です。多くの子供たちは、学校や家庭がある地域の中で育っていくもの。中には、家族と先生以外の大人と関わらずに社会へ出る人もいます。

近年、少子高齢化やグローバル化、情報化の中で子供たちを取り巻く環境も大きく変化しています。学校が抱える課題は複雑化、多様化しています。社会が変わる、生き方が変わる、働き方が変わる今、教育も変わる必要があります。

子供たちの学びが、実社会とつながり生きた学びとなり、学ぶことは楽しい、学ぶことは将来役立つんだと、子供たち自身が実感することが大切です。そのためには、これまで進められてきた「地域が学校を支援する」という一方の関係から、「地域と学校がパートナーとなって連携・協働して、教育目標を共有して一緒に育てる」双方向の関係になることが必要です。そして、子供の成長を軸にして、自立した地域社会の基盤をつくり、地域の活性化を図る「学校を核とした地域づくり」を目指していきます。

※ この冊子は、学校支援活動のコーディネーター向けに作成しました。



※引用資料：文部科学省「社会教育法の改正及び地域学校協働活動の推進に向けたガイドラインについて」(H29.4.25) より

地域学校協働活動推進員って？

地域学校協働活動を推進するための
コーディネーターです

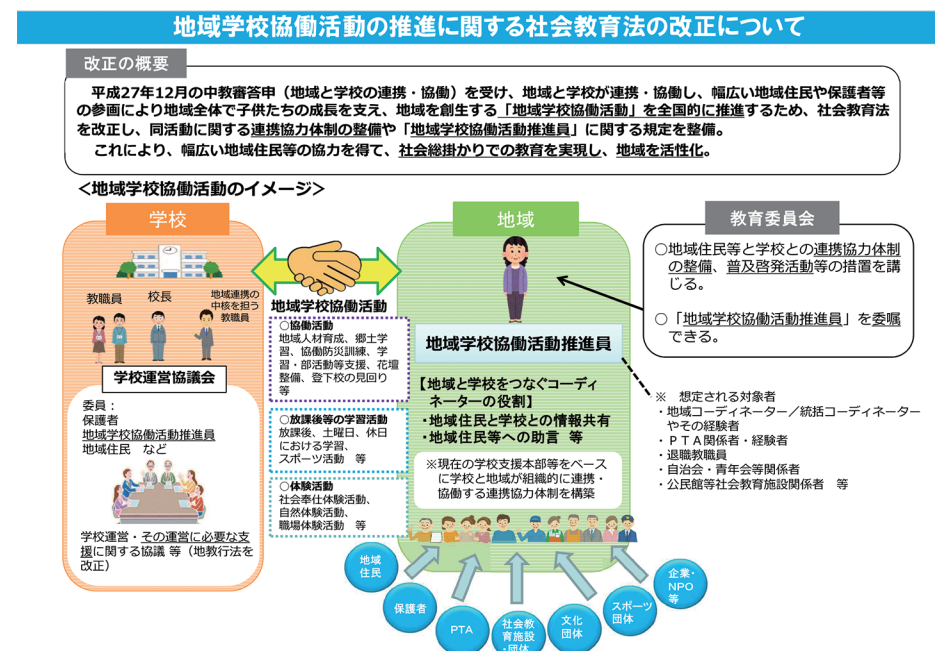
コミュニティスクール（CS）と地域学校協働活動の関係

コミュニティスクール（以下CS）は、学校運営協議会制度のことで、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。CSでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。学校運営協議会では学校運営の基本方針を承認する役割があります。CSが舵取りだとしたら、学校という船に乗って、どんな人とどんな航海をするのか、実現していくことが地域学校協働活動になると思います。

地域学校協働活動推進員に期待されています。

平成29年3月に社会教育法が改正されました。その中で、地域学校協働活動を円滑に、効果的に実施できるようにするため「地域学校協働活動推進員」が委嘱できると明記されました。コーディネーターの役割の人を明確にして、地域と学校の連携・協働を進めて行きたいと言うことです。統括的な役割を担う推進員（統括コーディネーター）と地域で活動を推進する役割の人（地域コーディネーター）がいます。

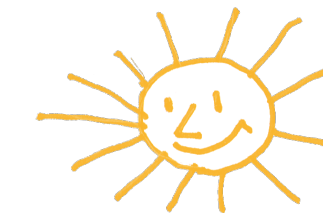
※（ ）内の名称は様々です。



※ 図：「社会教育法の改正及び地域学校協働活動の推進に向けたガイドラインについて」
(文部科学省 生涯学習政策局 社会教育課 地域学校協働推進室)より

地域学校協働活動で、 それぞれにいいことは？

子供たちに豊かな学びや体験を
地域への愛着と誇りを
社会総がかりによる教育の実現に向けて
新人コーディネーターが
ベテランコーディネーターに聞きました。



地域と学校がつながると、いいことは？

何より実感したのは、2011年の東日本大震災の時です。地域の方が学校の教育活動に日常的に関わってくれていたからこそ、避難所運営がスムーズでした。どんなに大変な時でも子供たちを一番に考え、子供たちにとっての日常である「学校生活」を送れるよう協力してくれました。

地域と学校がつながり、先生方が地域の情報を得たり、良好な関係を築いたりすることは「命を守ること」「共に助け合えること」につながり、結果的に地域の防災力を高めることになると思いました。東日本大震災を通してお互いを「知る」ことの大切さを学びました。

先生にとって、いいことは？

今の先生は、本当に忙しいです。教育活動の中で子供たちを見守る目が増えることは、**子供たちが安心して学べる学習環境づくりにもつながります。**

地域の方が学校を支援することによって、先生方が授業や生徒指導に力を注ぐことができるというデータもあります。**(※1)** 地域の方が入ることに不安や懸念を抱いたり、仕事が増えたりするのでは?と考える先生もまだまだいます。でも一度、地域の方の協力を得られて、一緒に子供たちを育てる良さを実感した先生であれば、当初抱いていた不安や懸念は払拭されることも多いようです。**教育活動への協力者を増やすことは、学校や先生の理解者を増やすことにもなります。**

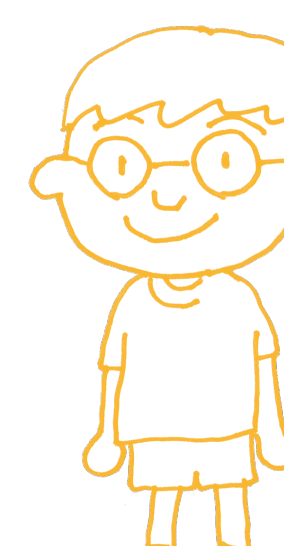
子供たちにとって、いいことは？

子供たちが地域の方と交流を通して、様々な体験や経験の場が増え、**コミュニケーション能力の向上につながっている、さらに地域への理解・関心が深まった**といった効果が表れています。**(※2)** それだけではなく、**保護者や地域の方の学校支援ボランティア活動が進んでいる学校ほど学力が高い!**そうです。**(※3)** 様々な場面で、たくさんの大人と関わることは、子供たちにとって学習意義を実感し、学習意欲につながることもなるのでは?と考えられます。様々な共有体験を通して、**子供たちは自分を大切に思う自尊心や、自分を好きと言える自己肯定感を高めること**につながります。**(※4)** いじめや不登校と言った課題にも、根底には子供たちの自尊心や自己肯定感の低さがあると感じます。大人との関わりは、心の成長に良い影響があると言えます。



地域住民にとって、いいことは？

どんな地域にも子供たちのために何かしたい!と思っている方が必ずいます。地域の方々の持つ知識や技能、学びの成果が子供たちの教育活動の中で生かされることは、何より**地域の方の生きがいや自己実現の機会**となります。**(※5)** また、地域の方が学校を支援することを通して、**地域の教育力が向上し、地域の活性化にもつながります。****(※6)** 地域の方が子供たちと顔が見える関係ができると、**地域の中でもコミュニケーションが取れる関係**となります。学校での学びを核として、間接的に保護者とのつながりや地域住民同士でのつながりが生まれ、**ネットワークや地域コミュニティづくり**にもつながっていくと感じています。ゆくゆくは、**地域の担い手を育てる**ことにもつながっていきます。



保護者にとって、いいことは？

子供たちが育つ家庭環境は、益々多様化しています。保護者の経済力が高いほど子供の学力も高いと言われています。**(※7)** 家庭の教育力により学力や体験活動の格差が生じているのも事実。授業の一環として、子供たちが様々な体験活動を行うことは、**家庭内での親子間の会話のきっかけ**ともなります。また、子供たちの学びを通して、**保護者も地域を知り、学びにもつながっていきます。**学校支援ボランティアとして関わることで、自分の子供にだけ目を向けていたのが、色んな子供がいる、という安心感につながり**子育てに余裕が出た**という話を聞きます。ボランティア活動を通して、PTAや子供会活動とは異なった、**新たな仲間づくりができた**という方も多いです。

※1, 2, 5, 6 : 「平成27年度地域学校協働活動に関するアンケート調査」文部科学省・国立教育政策研究所のデータより

※3, 7 : 「平成25年度全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」国立大学法人お茶の水女子大学 平成26年3月のデータより

※4 : 参考文献「いのちの教育の理論と実践」近藤卓著 金子書房

統括コーディネーターって どんな役割？

統括コーディネーター
ある一日

8:30

- 打合せ、メールチェック
職員との打ち合わせ。その後はメールをチェック!
- 地域コーディネーターと連絡
地域コーディネーターからの要望があれば、職員に報告・相談随時行っています。
地域コーディネーターとはできるだけお会いしてお話を聞くようにしています。

10:00~

- 資料・事務処理
学校地域教育の事業を担当しているので(※)、書類の用意や、各部署との調整を行います。

13:00~

- 支援活動
大きなプログラム活動には、担当コーディネーターと学校での打合せから一緒に活動し、困っていることがあればフォローや相談役になります。活動当日も、裏方として担当コーディネーターをサポートします。

16:00~

- メールチェック、活動報告作成
地域コーディネーターからの連絡や報告を受けたり、事業の報告書を作成します。

※事業については地域により様々です。

地域コーディネーター、地域ボランティアを支える頼もしい相談役

はじめる前に、
活動を見学してみ
ましょう！
心配や不安が
軽減できますよ！



先に始めている
地域の方に
ヒアリングする
こともおススメ。

地域全体の地域がっこう協働活動等の企画・調整

教員（管理職や地域連携担当）、行政職員、地域コーディネーター、ボランティア、社会教育施設職員等を対象とした研修会等を行います。
また、各行政部局と協力して、活動に特化した研修会を企画・調整・運営してします。
(例：読み聞かせ、登下校ボランティア)

地域コーディネーター同士のネットワークづくり

定期的に複数いるコーディネーターの情報交換や、研修会、活動を通して互いに活動してしやすい関係性をつくります。

地域コーディネーターの発掘・人材確保

地域コーディネーターは、フットワークと柔軟性があって、学校と信頼関係が築ける人が向いています。

地域コーディネーターの資質向上を図る研修

自治体独自の研修を企画したり、外部機関の研修会への参加を促します。

地域学校協働活動、事例の収集・情報提供

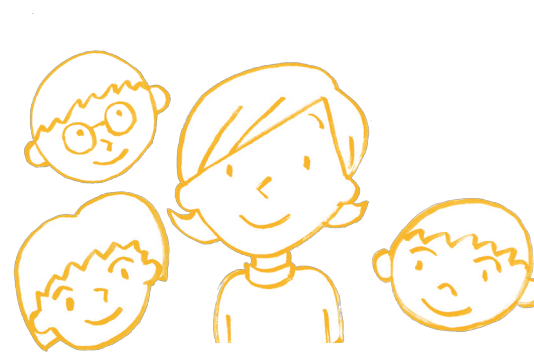
地域コーディネーターから実践事例や報告を定期的にまとめます。統括コーディネーターが参加した研修会等で得た様々な情報を提供します。

各地域の学校協働活動の充実

地域コーディネーターが活動の意義を実感できるような場づくり等を促します。(例：ボランティアとの交流会)

地域コーディネーターって どんな役割？

学校と地域をつなぐパイプ役



学校のニーズと目標の共有

先生の「～のために～したい」、「～できる人いないかな」の声に耳を傾けます。

地域のニーズと意思の把握

さまざまな地域の人の声を聞き、思いを受け止めます。

ニーズとシーズのマッチング

学校とニーズに応じたボランティアを探し調整します。地域のニーズを受けた場合、学校へ働きかけ活動につなげられるよう調整します。

活動実施に向けた連絡調整

先生、ボランティア、双方と活動のねらい・目標を共有し、より充実した活動となるよう打合せや事前準備をします。

活動当日の支援

先輩コーディネーターの
動きを見てみよう！

ボランティアのお迎え・管理職への紹介・活動直前の最終打合せ・活動の記録・ボランティアの活動支援・活動のふりかえり等を行ないます。

活動後のまとめ・情報発信

活動の内容をまとめたり、ボランティアへの御礼状を出したり、通信等を作成して情報を発信します。

学校とボランティアとのネットワークづくり

各地域や学校で子供を中心に集まり活動する。人同士が顔が見える関係づくりを促します。(例：ボランティアの感謝の会、交流会など)

地域コーディネーター
ある一日

朝

- 事務仕事
「打ち合わせシート」、「振り返りシート」をつくります。学校や他のコーディネーターとの情報共有のために大切な書類です。
- 連絡・調整
依頼内容に基づいて先生やボランティアへ連絡し、活動日や内容の調整をします。

昼

- 学校支援活動・振り返り
学校でボランティアのサポート。
- (活動のある日は)活動の支援
ボランティアの対応や、活動を記録します。

夕方

- 「報告書・活動報告書」を作成
1日の活動報告書をつくります。
- 学校との電話連絡
夕方は先生も連絡が取りやすい時間帯です。細かな調整や、準備について相談や報告をします。

地域コーディネーターの具体的な仕事ってなんだろう？

県内で活躍するコーディネーターが行なっている方法をご紹介します。

学校のニーズを把握する

ニーズ把握のためのシートを作成し、年度末に各学校の先生（地域連携担当など）に添書とともに渡しています。新年度、各学校で必要な学校支援ボランティアの希望を取っています。

平成30年 月 日

●●●中学校
校長 ●● ● 様

○○市教育委員会
所 長 ○○ ○○
(公印省略)

平成30年度 学校支援ボランティアの派遣予定把握について（お願い）

時下 益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、平成30年度の学校支援ボランティア派遣について、予め把握できる部分については把握し、ボランティアの方と事前調整を行いたいので、ご多忙のところ誠に恐縮ですが、各先生方の「つよき」を含め希望を掌握いただき、別紙参考資料の要領で取りまとめの上、○月○日（○）までお知らせを願えればと存じます。

※様式については、小・中各校の教頭・副園長先生宛メールでお届けいたします。
※お願い：報告については、メールでいただければ幸いです。

担当：○○○○○○○○○○○○○○○○○○

〒〒 〇〇〇-〇〇 〇〇 〇〇

TEL 〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇 (内線〇〇〇〇)

FAX 〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇

添書

※ 資料提供：登米市教育委員会

№	学年	活動名(部・部・領域)	どんな活動を予定していますか	いつ頃	何人位	目安の時間
1	下級生(後)受身	・校舎等での授業の受身と引越の準備等から歩いて帰るときの受身等。	4-5月	何人位	30分間	
2	きつうの行事(部)	・地場産物の売上のあるきつうの取組について協議と協議の受取をまとめること。	秋・春	1-2人	1時間	
3	来迎・送別	・迎えに来る保護者の車道の交差点までいったん待つ。	8月12日	4-5人	2時間	
4	校外学習の受身	・校外学習の受身の受身と声かけ。	9月1日	2-3人	4時間	
5	まち探検生活(生)	・子どもたちが遊ぶ場所をたずねるに各グループへ付き添い、安全・危険を知らせる活動を行う。	8月	4-5人	1時間×3回	
6	リースく(生活)	・いつもではないけれど、リースくをきくとにやにやしながら注意して作業をするように受身。	9月上旬	2人	2時間	
7	モンシロ追(家庭科)	・モンシロ追の準備・準備、作業の受身。	9月10-10月	4-5人	1時間×3回	
8	会合(生活)	・会合と引越の引越と受身。安全に配慮するよう声かけ。	1月1日	2-3人	3時間	
9	持来犬と受身	・持来犬の持ち来犬の管理・持来犬に出で練習を行う。安全確保の点から、受身に十分注意して受身。	10-11月	4-5人	1時間	
10	交流(生活)	・県庁での交流。	11月2日	2-3人	2時間	
11	地場産物(生活)	・地場産物の販売である地場産物作りの説明と受身。	1月	2-3人	1時間	
12	地場産物(生活)	・地場産物の販売である地場産物作りの説明と受身。	1月	2-3人	1時間	
13	地場産物(生活)	・地場産物の販売である地場産物作りの説明と受身。	1月	2-3人	1時間	
14	地場産物(生活)	・地場産物の販売である地場産物作りの説明と受身。	1月	2-3人	1時間	
15	地場産物(生活)	・地場産物の販売である地場産物作りの説明と受身。	1月	2-3人	1時間	
16	地場産物(生活)	・地場産物の販売である地場産物作りの説明と受身。	1月	2-3人	1時間	
17	地場産物(生活)	・地場産物の販売である地場産物作りの説明と受身。	1月	2-3人	1時間	
18	地場産物(生活)	・地場産物の販売である地場産物作りの説明と受身。	1月	2-3人	1時間	
19	地場産物(生活)	・地場産物の販売である地場産物作りの説明と受身。	1月	2-3人	1時間	
20	地場産物(生活)	・地場産物の販売である地場産物作りの説明と受身。	1月	2-3人	1時間	

■ ニーズ把握シート

事前打ち合わせで
情報を共有する

実際の活動に関わる学校支援ボランティアとの調整が終わったら、先生、学校支援ボランティアコーディネーターの3者で事前打ち合わせを行います。

その際、授業や活動の目標やねらいを共有したり、詳細を決定します。コーディネーターはその内容を校内で回覧できるよう1枚にまとめます。

ポイントは、管理職が押印できる欄を上部に入れることです。

※ 資料提供：仙台市立東六番丁小学校
学校支援地域本部

校長	校務主任	教頭	教務主任	事務部長	庶務部長
校長 氏名	教育委員会 に提出する				

入学日： 月 日 学校 → 休養本部 迄 月 日 学校 → 休養本部 ③ 月 日 学校 → 休養本部 ④ 月 日 学校 → 休養本部

学 校 記 入 欄

依頼担当者	年
依頼内容と依頼内容 (数量・単位など)	
授業・活動 のねらい	
依 頼 内 容	
支援ボランティア との合設日時	希望する・希望しない 第1希望 月 日 () : ~ 第2希望 月 日 () : ~ 第3希望 月 日 () : ~
授業・活動支援 希望日時	時間目 第1希望 月 日 () 時間目 第2希望 月 日 () 時間目 第3希望 月 日 () 時間目
連絡・留意事項	

学 校 支 援 地 域 本 部 記 入 欄

当日スケジュール	★ 来校 ★ : 校長先生へ挨拶 → 準備 ★ : 担任と打合せ。 ★ : ～ : 授業 → : 片付け ★ 校長先生へ挨拶 → 終了
外部講師情報	
講師派遣依頼文書 の発行	要、不要 送付先
備 考	
学校支援地域本部 連絡先	XXXXXXXX 支援本部携帯：090-0000-0000 abcd@abcxxx.xx.xx

■●学校支援ボランティア（外部講師）連絡表■●

学校支援ボランティア連絡シート



十人十色の子育てと親育ち

「親子のつしるべ」事前打合せ

② スタッフ陣営

- 子母会
係長
- 材料員
係長の
右

- Mファシリテーター： _____
- 東京都教育支援チーム： _____
- 子育てサポートリーダー： _____
- 地域子育てでサポート： _____
- 他 スタッフ _____ 計 _____名

③ 準備物整理

- ・・・・手エッグ
- 受付用紙
- グループ分け方法（関係者さまに配給） _____
- グループ表示 _____
- 名札・既着・作成（紙）氏、同席テーブル、ソール、マジック、ピン） _____
- 表示用紙 みんなの輪（色など）（ ） _____
- 配布物 要領ワーク（有・無）（ ） _____

当日 グループ配布用紙、参加者着用フリース、 振返り資料、 ひせん _____

 グループワークシート（ _____

 その他（ ） _____

印刷 様式 _____ セット 封入用紙 _____ だけばき _____

 アンケート、筆記用具、（ _____

 メモシージカード 既成・作成 _____

④ 会議アイテム

絵本、板紙型、CD _____

アイスブレイク クラッ _____

グループワーク クラッ _____

・・・その他 家庭支援チームにピアス、スタッフナーム、 _____

 折り紙作り万葉本など _____

名札、冷暖房、筆記用具持参（できればサインペン）・筆圧対策、懐中電灯

配布するものは、子育てを十分に準備しておくこと。本菜のようにしましょう！

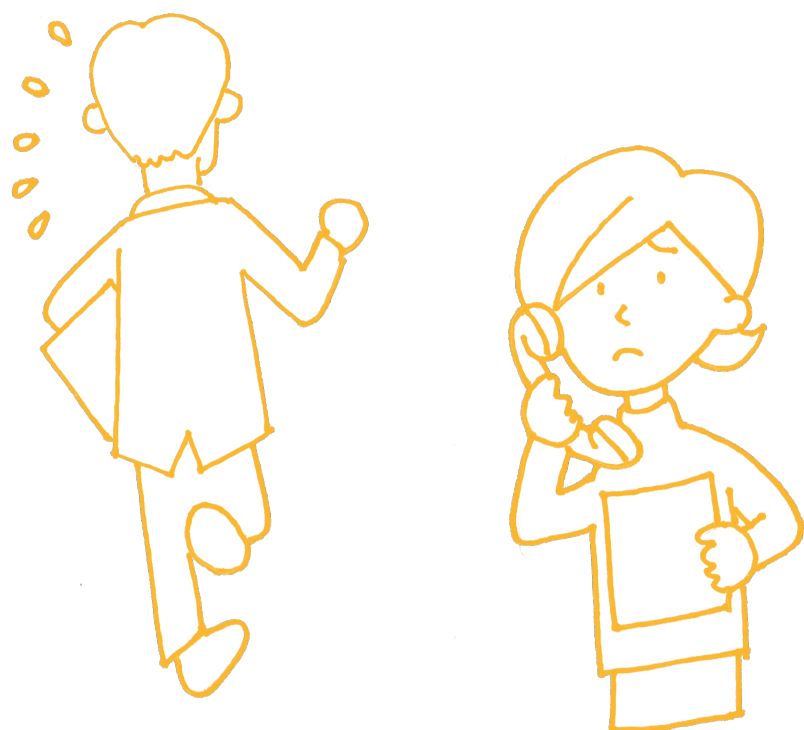
⑤

「親の道しるべ」事前打ち合わせ

※ 資料提供：大崎市協働教育コーディネーター・家庭教育支援チーム

先生に連絡するには、 いつ、どうしたらいい?

コーディネーターになった人の多くが
最初に抱く疑問の一つです。
まずは先生の動きを把握しましょう。



毎日忙しい先生でも連絡が取りやすい
時間帯や方法があります。
まずは、担当の先生に聞くといいから。

先輩
コーディネーター
から

- 日中、教頭先生や事務の方が電話対応されることが多いです。まずは、教頭先生に要件、どの先生と連絡が取りたいかお伝えしておく、その後の打合せもスムーズでした。
- 事前に、担当の先生（地域連携担当教諭など）に、電話に出られる時間帯を聞いておくといいですよ。『〇〇先生にご連絡をするには、なん曜日のなん時頃だといいですか？』とお聞きすると、具体的に教えてもらえました。
- 16時以降、職員室に一度戻られる先生も多いので、連絡するにはいいタイミングです。中学校は部活動もあるのでもう少し遅い時間帯がいいようです。
- 連絡事項だけなら、要点をまとめてFAXをするのも情報共有によいですね。
- 中学校は教科ごとの担当なので、時間割によっては日中でも職員室で連絡がとれることもありますよ。時間割をもらっておいて担当している学年を把握しておく

【ポイント】

連絡方法は、FAXと電話で!

小・中学校の先生方は個人用のメールアドレスを持っていてもチェックする時間もないほど忙しいです。FAX や電話でのやり取りを基本とし、確認を取りながら学校代表アドレスや先生個人への連絡を行いましょう。

時間帯	ある学校の先生の動き
7:00 ~ 8:00	出勤。早く来て授業準備や事務処理など
8:00 ~ 8:15	子供たちの登校の様子を観察、集金事務など
8:15 ~ 8:30	職員室で教員同士の打ち合わせ。1日の予定など確認、教材準備
8:30 ~ 8:45	朝の会
8:45 ~ 9:30	1時間目 (45分)
9:30 ~ 9:35	トイレタイム (5分) 短いトイレタイムも子供たちへの対応や宿題集めなど
9:35 ~ 10:20	2時間目 (45分)
10:20 ~ 10:40	中休み (業間タイム) 休み時間の様子を見守りなどで、職員室には戻れないことも多いです。
10:40 ~ 11:25	3時間目 (45分)
11:25 ~ 11:30	トイレタイム (5分) 移動教室だと、短い時間で先生も大急ぎで移動して準備をします。
11:30 ~ 12:15	4時間目 (45分)
12:15 ~ 13:00	給食の準備・給食指導 子供たちの安全管理
13:00 ~ 13:20	昼休み (子供たちの様子を見守る。)
13:20 ~ 13:40	清掃指導 (2~3ヶ所掛け持ちしています)
13:40 ~ 14:25	5時間目 (45分)
14:25 ~ 14:30	トイレタイム (5分)
14:30 ~ 15:15	6時間目 (45分) ※ 学年・曜日で違います。
15:15 ~ 15:30	帰りの会
15:30 ~ 18:00 ~	曜日や学年によっては、委員会、クラブ活動指導。 職員会議や資料づくり、事務処理が毎日あります。 明日の準備に取り掛かるのは夕方遅くなってしまう。

☎
チャンス

☎
チャンス

中学校の先生は、進路指導、保護者との連絡、部活動指導などがあり、かなり遅くなることも! 中学校の授業時間は50分になります。

新年度、スタートが大切！ コーディネーターとして 何をすればいい？

毎年、必ずあるのが先生の異動です。

年間で活動しやすくするために

知っておくといいいことをご紹介します。

「私がコーディネーターです」と ご挨拶する場面をつくってもらう

新年度最初の朝礼や職員会議等で、新しい先生にも誰がコーディネーターをしているか、管理職からご紹介いただくと、顔が見える関係が構築しやすくなります。

また、コーディネーターがどんなことをするのか、どんな立ち位置なのかをお伝えすることもおすすめします。4月末にあるPTA 総会でも、保護者向けにコーディネーターや地域学校協働活動の紹介をすると理解が深まります。



先輩コーディネーター
のちょっとした
気遣い&工夫

- まずは、笑顔で挨拶！先生だってコーディネーターは話しやすい人の方がいいと思いますよ。
- 担当の先生が変わった時には「昨年はこんな活動もしていました」と一覧でお渡ししています。押し付けにならないように、必要な時にお声がけくださいと言い添えます。
- 担当の先生だけでなく、教頭先生や教務主任、学年主任の先生等にもお話するように心がけています。校内でいろんな先生と話しやすくなると活動もスムーズに。
- 先生からのお願いごとに「無理」と思ってもすぐ断らないようにしています。無理そうなどきは「こんなのはどうでしょうか？」と代案をお話するよう心がけます。

年度始めに学校からいただきたいもの 知っておきたいこととは？



学校要覧

毎年、学校ごとに4月-5月頃を目安に作成します。教育目標やめざす学校像、児童・生徒像、職員名などが記載されています。

学校として、どんなことを大切にしていくのか具体的にどんな取り組みを行っているのか等が書いてあります。一度は目を通すことをおすすめします。

年間行事予定

年度末には、新年度の年間行事予定が確定します。年間行事予定一覧表をいただくと、コーディネーターとして動く時にも役立ちます。

平成30年度 ●●●学校 年間行事予定表(例)

日	4 月	5 月	6 月	日
1	日	火 校外学習(●年)	金	1
2	月 親任式・着任式	水	土	2
3	火	木 憲法記念日	日	3
4	水 職員会議	金 みどりの日	月 避難訓練	4
5	木 教員会・学年会	土 こどもの日	火 職員会議	5
6	金	日	水	6
7	土	月	木	7
8	日	火 職員会議	金	8
9	月 始業式・入学式	水	土	9
10	火 PTA役員会	木	日	10
11	水 給食開始	金	月	11
12	木	土	火	12
13				

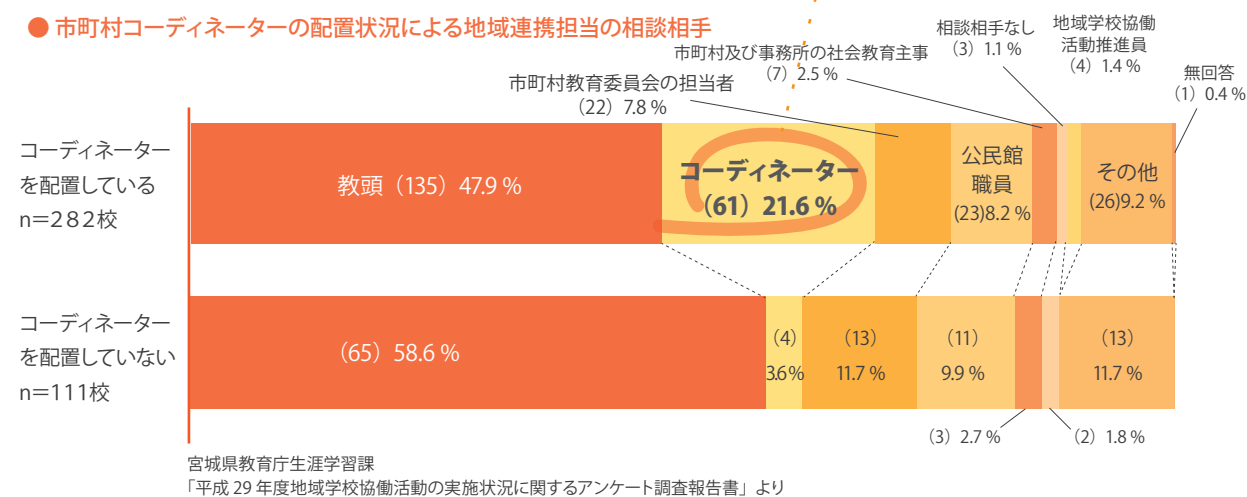
校務分掌

校務分掌(こうむぶんしょう)とは、先生方が学校内で行う「様々な役割」のことです。

先生方は、学級担任や担当教科、部活動を受け持つだけでなく、校内では様々な役割を持っています。主な校務分掌は、教務主任、研究主任など各種主任、総合的な学習の時間、防災、生徒指導、進路指導、特別教育支援教育、給食指導、図書、情報教育、清掃指導、保健指導などがあります。校務分掌は、教育委員会や学校ごとで必要に応じて名称や内容も異なりますが、「地域連携担当」は、宮城県内全ての小・中学校に配置されています。コーディネーターにとって、教頭先生だけでなく地域連携担当の先生と話す機会を増やしていいいきましょう。

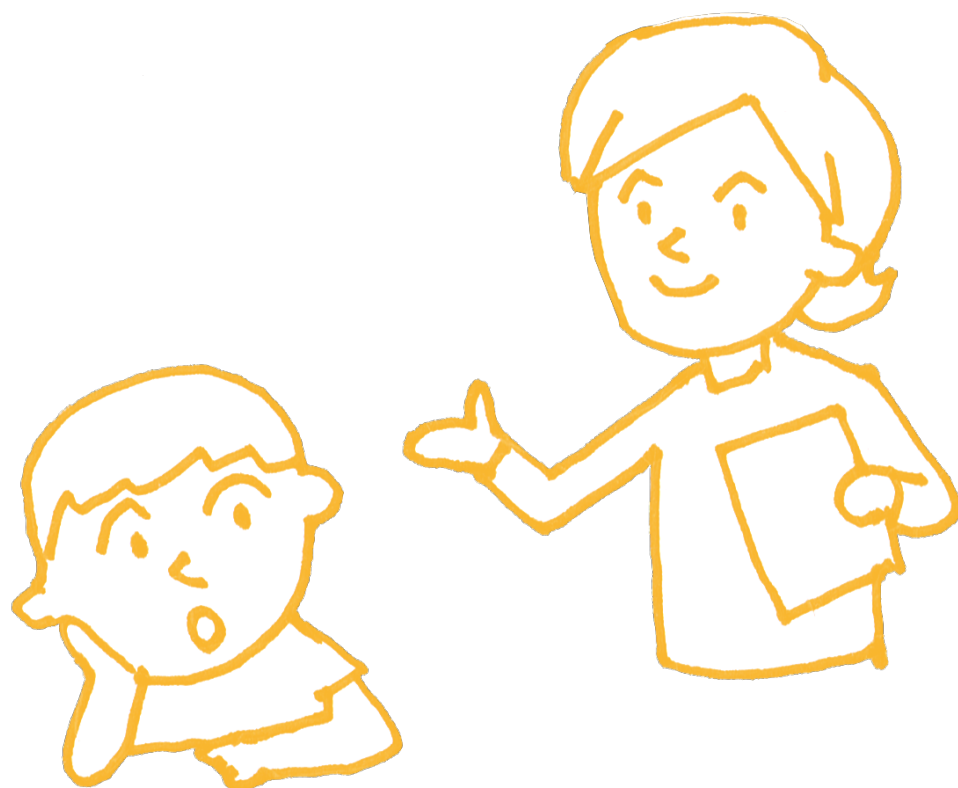
● 地域連携担当の先生の相談役はコーディネーター。

以下のデータを見ると、コーディネーターがいる市町村教育委員会や学校では、頼りにされているのが分かります。



地域コーディネーターに 役立つスキルって 何だろう？

ここで言うスキルとは、コーディネートする上で
知っておきたいちょっとした「コツ」を言います。



ただ「つなげる」だけじゃない。
より活動を充実させるための
コーディネートスキルとは？

先輩コーディネーターに聞いてみました。
『知る』と『できる』は違います。まずは、意識してやってみましょう！

① 聴く力

コミュニケーションの基本は聴くこと。相手の話を「聴いているよ」とサインを出すことが大切です。

● ポイント

- ・相手の話を最後まで聴く。
- ・相手の話を否定しない
(一度は受けとめる)
- ・分からない時は、素直に質問する。

② 伝える力

相手の立場になって、相手に分かりやすく話すこと。相手を嫌な気持ちにさせないことが大切です。

● ポイント

- ・自分の思いを一方向的に話さない。
- ・専門用語やカタカナ語に気をつける。
- ・場合によっては、文字で伝える
(メール、メモ等)
- ・「大丈夫でしたか?」「何か分からなかったことありますか?」等の一言を添えて、相手に伝わったか確認をする。

③ 発信する力

どこに(誰に)、どんな情報を、どうやって発信するを明確にすること。発信ツールは様々です。

● ポイント

- ・事前に学校やボランティアの取材・撮影・掲載許可をもらう。
- ・ボランティアへの撮影・記録のルールを説明する。
(特に撮影NGの児童・生徒の確認、個人が特定されないような配慮が必要)

やってみよう！

- ・相手の目を見る
- ・うなずきながら聴く
- ・あいづちを打つ
- ・相手の言葉を繰り返す
- ・メモを取る

やってみよう！

- ・相手の目を見る
- ・声のトーン、話すスピード、言葉づかいに気をつける
(上から目線はNG)
- ・ポイントを絞って伝える

主な情報発信ツール

- ・～通信、～だより
- ・HP、Blog
- ・SNS (facebook、Instagram 等)
- ・マスコミ (TV、新聞等)
- ・地域広報誌 等

上記のスキルを支えるベースは・・・

準備する力

事前の「段取り8分」です。
活動当日に向けて、「モノの準備」
「心の準備」をすると「コトの準備」につながります。

心の余裕ができると・・・



笑顔で活動できます！
先輩コーディネーター誰もが
活動中は笑顔が大切と答えています

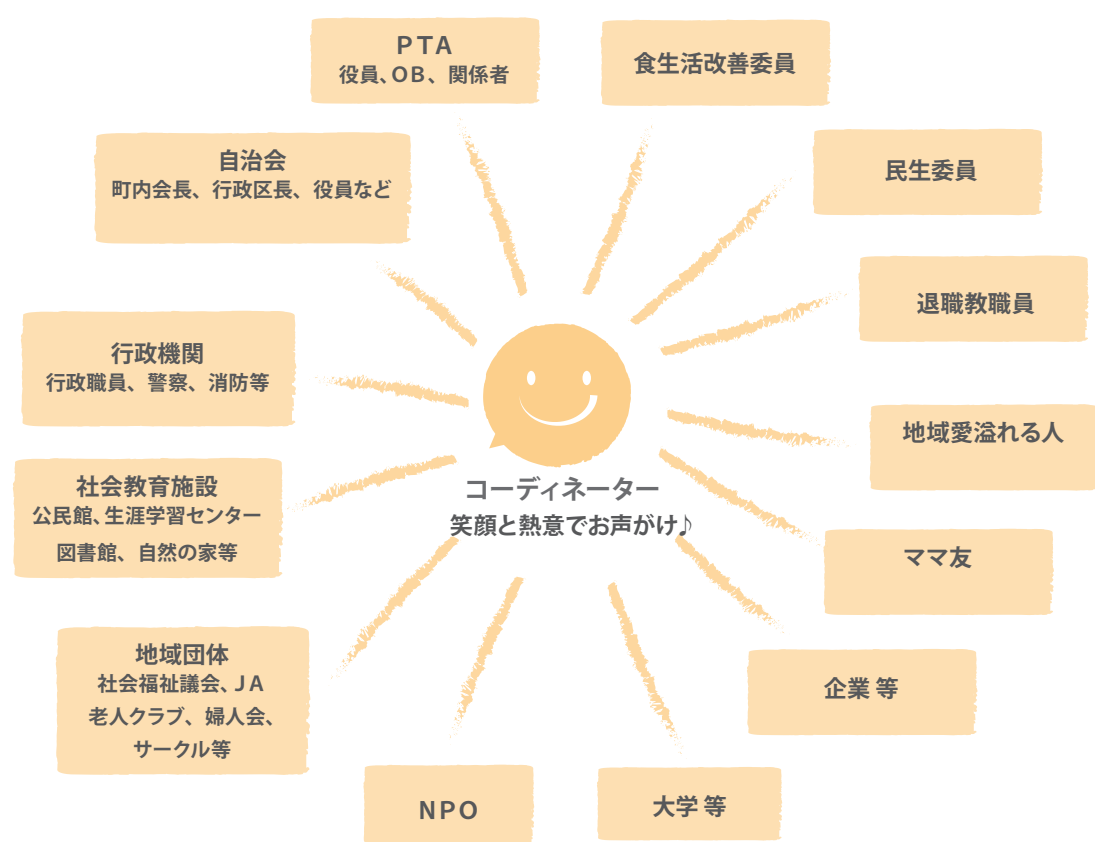
協力してくれる ボランティアを どうやって探す？

コーディネーターの誰もが経験する
ボランティア探しの第一歩。

まさにコーディネーターとしての
腕の見せ所。誰に声がけするかで
活動の質が変わります。

地域のキーパーソンに相談する

地域のキーパーソンとは、この人とつながると情報が得られる、協力者を集めてくれる、活動を支援してくれる等、地域で頼りになる方です。所属団体の長であったり、事務局を担う中心的な役割の方が多いです。先生の「子供たちのために、こんな活動をしたい」という思いを実現するために「～できる人」を探します。まずはコーディネーターが信頼できる方へお声がけしてみましょう。



地域の方へのご挨拶で緩やかなネットワークづくり

子供たちのより豊かな活動のために、コーディネーター自らが地域へ足を運び、ご挨拶をして顔が見える関係をつくるのが大切です。「ご挨拶3点セット」を用意すると便利です。

ご挨拶3点セット

【名札】 【名刺】
【活動紹介パンフレット】

どんな方がボランティアをしているの？

ボランティアは、特別な資格がなくても大丈夫！「子供たちが健やかに育って欲しい、子供たちに自分ができることを教えたい・伝えたい、子供達を見守りたい、子供たちや地域のために何かをしたい」等と言うお気持ちがある方なら活動できます。専門的なことなら外部講師に、地域の方なら誰でもできる活動なら日常的なサポーターとして。活動内容によって活躍する場面が異なります。

コーディネーターが、地域の方の思いを汲み取って、活躍の場をつくることも大切です。



PTAとの関係

地域学校協働活動では、PTAとの関係を整理しておくと思います。
PTA 関係者がコーディネーターや学校支援ボランティアをされている方も多いです。自分の子供が卒業しても、学校の教育活動に関われる良さもあります。また、地域学校協働活動として行う際、場合によっては、PTA予算から資金を捻出してもらうこともあります。

ボランティアが 気持ちよく活動するために どんな準備が必要？

初めてボランティアする時は

大人でも緊張します。

子供たちのために

ボランティアが活動しやすいよう

準備を進めましょう。



ボランティアとの関わりは 当日だけでなく、事前・事後も大事！

コーディネーターとして行う
業務の流れを時間軸でご紹介します。
事前の打ち合わせ、事後のふりかえりも
しっかり行くと次につながりますね。

事前

■ 打ち合わせでは・・・

- ・授業や活動のねらい、目標を共有する。
- ・子供たちの情報を共有する。
(クラスの様子、配慮が必要な子供のことなど)
- ・当日の交通手段、到着時刻、準備物、留意点などを確認する。
- ・ボランティアの当日の連絡先を聞いておく。
- >>>> 当日、直前に変更が生じた！ボランティアと連絡が取れなくて困った。なんてことも。
- ・ボランティアに撮影（写真やビデオ）していいか許可を取る。
- ・ボランティアが撮影した写真等を SNS や WEB にアップする際は事前に学校の許可を取るなど注意を伝える。
- ・活動中に知り得た情報について、守秘義務があることを伝える。(場合によっては、誓約書を記入していただくことも)

■ 打ち合わせ後、前日までに・・・

- ・撮影 NG の子供がいるか、先生に確認する。
- ・ボランティア保険に加入手続きをする。
(学校を経由して加入することが可能。詳しくは教頭先生へ)
- >>>> ボランティアが活動中ケガをした。治療費の相談が入って…トラブルにならないようにするために保険加入は必須です。
- ・ボランティアの名札を作成する。
- ・必要な書類を作成し (例えば、P10 学校支援ボランティア連絡シート等)、校内の関係者で共有する。
- ・授業や活動で使う物を準備する。
- ・(学校によっては) 活動についてマスコミに取材依頼をする。 など

当日

■ 活動前に・・・

- ・ボランティアが揃ったら、全員で最終の打ち合わせを行う。
- ・時間があれば、管理職へご紹介する。
- ・担当の先生と直前の打ち合わせを行う。
- ・再度、守秘義務について伝える。
- ・何よりも「子供たちのための活動である」ことを伝える。
- >>>> ボランティアが張り切って、子供たちがやる学習なのに全部自分でやっちゃった…とならないように目標やねらいを共有しておくことは大切です。
- ・当日の見学がいる場合や取材が入る際も、お伝えします。
- ・最後に、撮影や守秘義務について確認をする。

事後

■ 活動直後に・・・

- ・何よりも、感謝の気持ちを伝える。
- ・(活動によっては) ふりかえりシートや感想を書いてもらう。
- ・良かった点や改善点はしっかりと伝える。
- >> 「もっとこうすると子供たちの反応が良くなりますよ」などとアドバイスも。子供たちの学びと成長のためであり、活動の質も向上します。
- ・ボランティアからの意見や気づきもしっかりと聞き、先生方と共有する。

■ 活動日以降・・・

- ・子供たちの感想やお礼状をまとめ、渡す (送る)
- ・通信等を作成し、活動を紹介する。

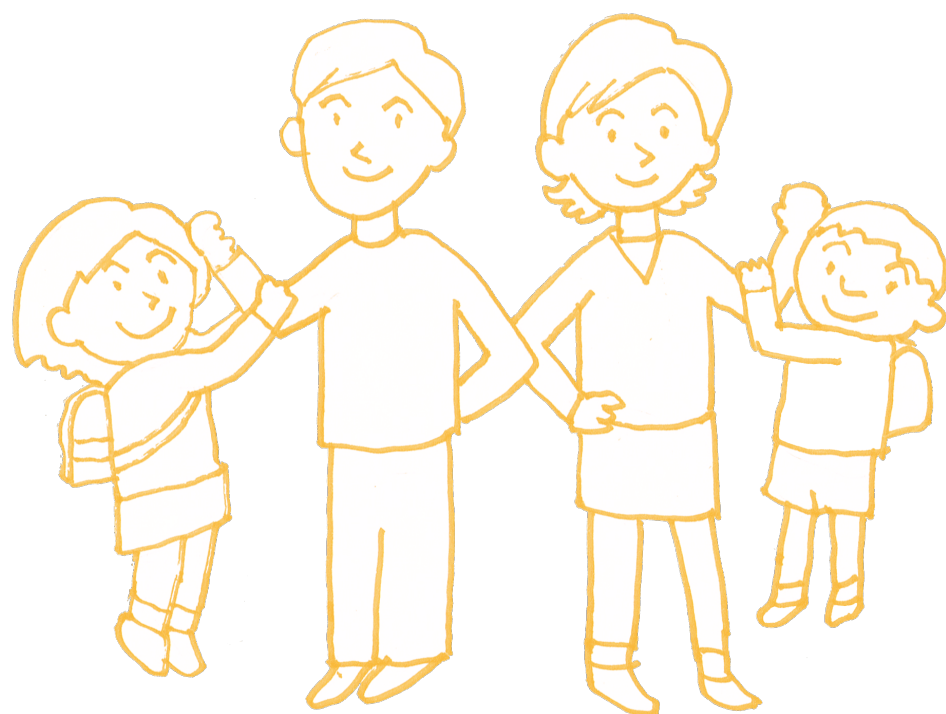
もっとボランティアが 活躍するには？

子供たちのためにと、ボランティア登録したものの

いつも決まった方ばかりが活躍している・・・

登録したボランティアの活躍の場は

登録内容だけではありません！



ボランティアの 活躍の場を広げるために

人材バンクリストを作って、満足していませんか？
ボランティアの考え方を変えてみましょう。

ボランティアをする方の思いを活かそう

よくあるのが学校支援ボランティアの「人材バンクリスト」。コーディネートをする人にとって、貴重な情報です。しかし、ボランティア側からすると、せっかくボランティア登録したのに、「全く声がかからない」という不満の声が聞こえてくることもよくあります。

そもそも人材バンクは、概ねゲストティーチャーとして活動できる特技や専門的知識等を持った地域の協力者です。この特技や専門的知識等は、学校の教育活動内容と合致するとは限りません。協力しようとボランティア登録してくれる方は、子供たちのために何かしたい、役立ちたいと思っている人ばかりです。大切なのは、この方々の思いを受け取ること。

学校支援支援ボランティアが活動するニーズの考え方も、下記のように2つに分けるとコーディネートしやすくなります。

学校ニーズの考え方

専門的知識や技術が
必要なゲストティーチャー
による授業や活動

学習内容によっては、
これまでも
ゲストティーチャーは
学校で調整
できていました。

地域住民等による
専門性を問わずにできる
サポート活動

子供たちの
学習環境を整えるため、
日常的な授業や活動への
サポートに対する
学校ニーズは高いです。

※資料提供：NPO 法人まなびのたねネットワーク

【例】小学校での書道ボランティア

ゲストティーチャー：書道を教えられる人（人材バンクの登録内容）

サポーター：書道の準備・片付け等のお手伝いができる人（登録ボランティアに声がけ可能）

地域から学校への要望 「こんな事したい」と 言われたら？

地域の方やボランティアからの提案や要望。

嬉しいけれど、時には学校と地域の間に入って

困ってしまうことも…

対応の仕方が大切です。



学校への提案を

子供たちの豊かな学びにつなげるために

学校の教育活動には約束事があります
どの授業や活動でも学習課題や時間が決まっていることを
覚えておきましょう。

大人の自己満足にならないために 知っておきたいこと

子供たちに豊かな学びをしてほしい!協力者の思いが熱いほど、強い要望が出てくる場合があります。

確かにと、うなづきたくなる場面ですが…ちょっと待ってください。学校の教育活動は、国（文部科学省）が定めた学習指導要領に則って

学習内容や学習時間が決められています。先生は、年間でのカリキュラムを考え、スケジュールを組み立てて授業や学校行事などを行っています。突然、新しいことを「やりましょう!」と言われても、それがどんなに子供たちのためになることであっても、調整することが難しいのが現状です。大人が提案した「やりたい」を実現するのは、大人の自己満足になりかねません。コーディネーターとして、学校の事情を理解することはとても大切なことです。

子供たちを中心に考える

せっかくいただいた提案。地域学校協働活動を進めるためにも、コーディネーターとしては有難いことです。では、その提案は、対象となる子供たちにとって適したものか?を考える必要があります。子供たちの発達段階は様々です。学校での学習内容や、実施時期も関わります。その提案内容が、何のために行われるのか、どんな子供たちを対象に、それを行うことによってどんな学習効果が得られると考えているのか、また参考となる実績はあるのか等を、しっかりと聞く必要があります。コーディネーターとして可能な限り事前情報を得られると、学校が実施可否の判断がしやすくなります。それが、子供たちの豊かな学びの機会を創る一歩となります。

実現するために どうすればいいか

まずは提案してくれた方への熱意を受け止め、感謝の気持ちを伝えましょう。コーディネーターの力量にもよりますが、提案内容について、どうやったら実現できるか一緒に考え、調整することもできます。と同時に学校へ提案内容を打診することも必要です。その時に先生方が判断しやすいように得ている情報を伝えます。コーディネーターが学習内容等を理解しているのであれば（専門的な知識を要しますが）、具体的に「〇年生の●●ではいかがでしょうか?」と判断を仰ぐこともできます。もしくは、提案内容の情報があれば、先生の方から「〇年生の●●だったらできるかも」と受け入れてくれることもあります。

もし、新年度の計画に組み込んでもらいたいのであれば、なるべく早く（12月頃を目安に）相談しておきましょう。コーディネーターは双方の思いを受け止め「通訳者」となることが、橋渡しをする時に大切です。

事例紹介1 見守る大人たちが参加

仙台市 小1 生活・学習 サポーター

取材協力：宮城県仙台市立東六番丁小学校

スーパーバイザー
鹿野さんに
生活学習サポーターの
ねらいを聞きました

この企画のねらいは、何かと不安がある新入学児童が安心して学校での集団生活を過ごし、落ち着いて学習に取り組める環境をつくることにあります。そのために、担任の先生の指導をサポートするのが役割です。入学式翌日から夏休み前まで各教室に毎日1名ずつ入り、朝の会から帰りの会まで子供たちを見守ります。給食は仙台市から提供され、教室で同じものを一緒に食べて、子供たちと会話をしながら気を配ります。エプロン姿が目印で、通称『お母さん先生』と呼ばれ、その名の通り、時にはお母さんの目線で、細やかに優しく接しています。長く続いている活動で、保護者や地域の方々が登録し毎年行っています。

Q コーディネーターとして 気を付けていることは？

先生の意見を尊重しつつ、サポーターの声にも耳を傾けて双方のバランスを常に心がけます。それと、子供たちの学校生活そのものを見守るので、活動で見聞きたことでの守秘義務は、必ずお伝えしています。私なりのこだわりは、サポーターのシフトを考える時、なるべく知らない子供と大人が出会うようにしていることです。この活動を通して“年齢を問わず、新しい出会いが広がって欲しい”という願いからです。



仙台市立東六番丁小学校 学校支援地域本部
スーパーバイザー 鹿野恵美子さん

新・小学1年生の学習や生活を見守る

生活・学習サポーター、通称「おかあさん先生」。

授業以外にも着替え、食べる、トイレ…etc。

まだまだ不安な1年生に、温かく寄り添います。

まずは募集の呼びかけを 「お便り」から



4月当初、まずは「東六小支援本部だより」を作成して、子供たちを通して各家庭に配布。サポーターの募集をします。

担任の先生、サポーターの 皆さんとのパイプ役

1年生のクラス担任になった先生とコーディネーターとで、年度始めに簡単な打合せをします。そこで出た要望をサポーターに伝えています。現在、活動が長いベテランが多く、さほど細かな連絡は必要ないほどですが、初めての人には、先輩と一緒に活動してもらいます。大事なのは、学校は先生と子供たちのものであると忘れないこと。また、見守る、声掛けの言葉づかい等の注意点はきちんと伝えます。



後ろから手がのびて「ねえ、お母さん先生」

■ 生活・学習サポーターの募集から、活動内容

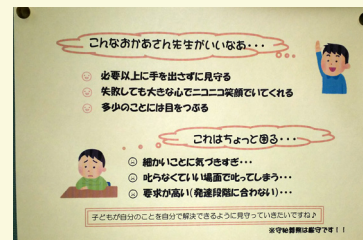
3 月

- おたよりや声掛けで募集
- サポーター申し込み受付
- 内容説明のため、学校に来てもらう
活動目的や守秘義務等大切なことはしっかり伝えます。

春休み

- 1年生担任の先生と打ち合わせ
- サポーターメンバーの把握
- 名札やロッカー等、受け入れの準備
- シフト作成
毎週、一週間前にはシフトを作ります。

工夫が いっぱい



お揃いのエプロン姿で、子供や先生が一目でお母さん先生と分かります。サポーターも、自分のものが用意であると居場所があるようで嬉しいとのこと。



一週間のシフトがひと目でわかるホワイトボード。



クラスごとにノートを分けておく先生も読みやすく、サポーターも書きやすくなります。



名札は誰が来たか一目でわかるため、学内セキュリティにも一役かっています。

先生との連絡、シフト調整も コーディネーターのお仕事

あらかじめ、先生にどの授業でどんなサポートが必要か伺います。例えば「今回は算数でおはじきを使うからフォローしてほしい」等です。なるべく各クラス一人が入れるように一週間前からシフトを作ります。



当日はサポーターが 動きやすいようにサポート

まず登校したらエプロンと名札を着けてもらいます。これで子供たちや先生もおかあさん先生だと分かります。打合せをし、情報交換ノートで前回からの引き継ぎ内容、先生からのコメントを確認してもらいます。また前の授業が体育だから、着替えの見守りが必要とか、遠足の前だから何だかはしゃいでる・・・など。クラス全体の雰囲気もコーディネーターが伝え、理解して接してもらえるよう心がけます。活動が始まると、基本はお任せです。コーディネーターは各教室の様子を邪魔にならないように見守ります。

終わった後が大事なひととき

活動が終了したら、クラスの情報交換ノートに書き込みをします。もともとは、おかあさん先生と、コーディネーターとの間で情報共有するノートでしたが、いつしか先生もコメントするようになりました。今は交換日記のようです。これがあるとそのクラスで見守っている大人たち全員が、情報共有できます。コーディネーターはサポーターが感じる「あれは?」「どうしたらいい?」をキャッチして、後の活動に活かします。



校長先生から一言 ～ 地元全体で育む力 ～

小1生活・学習サポーター“おかあさん先生”と過ごした子は、学年が上がっても落ち着いています。それは見守られた安心感があるから。卒業後、思春期になっても街角で「あら、どうしたの?」と小1の自分を知る人に言われるとやっぱり無視はできない(笑)。見守られている実感が続きます。地元全体で人を育む”ことが、今の子供たちには必要なのだと思います。



仙台市立東六番丁小学校
小野 順 校長先生

事例紹介2 15人の講師で開催

登米市の
キャリア
セミナー

取材協力：登米市立津山中学校

準備

6月説明会開催

各学校の担当の先生に集まっていた
き、セミナー説明会を行います。夏休み前
に、各学校から生徒の「希望職種ベスト
20」を出してもらいます。

初回打ち合わせ
(実施2～3ヶ月前)

統括コーディネーターと共に、校長先生、
教頭先生、担当の先生と講師リスト他、要
望等をお願い、再調整をします。
複数の人数で打ち合わせをすることで、行
き違いを防ぎます。

持ち帰った調整や必要な準備を地域コー
ディネーター同士でも情報共有しながら行
います。

キャリアセミナー
コーディネーター部会

「希望職種ベスト20」をもとに、地域
の枠組みを超えて、コーディネーター同士
が連携。講師案やネットワークをお互いに
提供し、講師候補と担当を決めます。

最終打ち合わせ
(実施2～3週間前)

統括コーディネーターと共に、学校と最
終段階の打ち合わせを行います。ここで
は細かな部分の確認が主になります。

一人で活動することが多い地域コーディネーター。

ここ登米市では、市内の複数の中学校でキャリア教育プログラム行うため、
統括コーディネーター役(登米市教育委員会生活学習課所属+社会教育指
導員)が全体調整役になりながら、担当学校、地域の枠を超えてチームで
活動します。

開催当日



1 講師受け付け

講師一人に担当者がつき、小道具や資
料をお預かりして控室へご案内



3 開会式

体育館での開会式



2 講師顔合わせ

学校側からのあいさつ等

4 各教室へ講師の方を
ご案内

生徒自らが行います。

津山中学校 キャリアセミナー講師一覧

- アナウンサー ●ゲームクリエイター ●デザイナー ●ネイリスト
- キャビンアテンダント ●パティシエ ●ホテル・旅館業 ●一級建築士
- 航空機整備 ●看護師 ●教員 ●幼稚園教諭 ●消防士 ●警察官 ●財政・金融

さまざまな職種の15名の講師陣。

中には県外からお呼びした講師も…。
こんなに多くの講師に来ていただくには、
情報収集、連絡、交渉、準備etc、etc。
たくさんの苦労がありましたが、
学校・地域を超えたチームで
取り組めたことで、可能になりました。

15教室で
入れ替わり制の講座

生徒が希望の講師の教室に向かいます。
講座は2回の入れ替わり制。
少人数なので、講師をより身近に
感じられるのが魅力です。
15名もの講師を前に、講座を
選ぶのにすごく迷った！
という生徒も。



講師反省会

率直な感想・意見を伺いま
す。「また来年も呼んでくだ
さい」との嬉しい言葉も聞
こえました



朝のミーティング

朝一番に一日の流れや役割分
担を確認します。



会場準備

各教室の準備もコーディネ
ーターが担当。PC環境の整備な
どはセキュリティの問題もあ
るので、学校の先生が管理し
ます。



記録係も大事な仕事

撮影された映像を基に、広
報や後日行われる講師交流
会で使う映像を編集します。
「責任重大なんです…」



「先生、今、こんな感じです」

子供たちの移動時間等の隙間
で、担当の先生に現状を細かく報告。学校全体で取り組む
大きなプログラムなので、全体
像がつかみにくいですが、こ
うした声掛けで情報共有を
しておくと、全体進行がス
ムーズになります。



中間ミーティング

津山中学校担当コーディネーターが
中心になって、2回目の中間ミー
ティング。どんな状況か、困ったことは
起きていないかを洗い出します。
情報共有することで、一人で「困
った」を抱え込まず、みんなで素早
く解決できます。



見守りとメモ

講師がどんな話をしたか、子供た
ちの反応も見逃さず、細かにメモ
します。また統括コーディネーター
役は、全体運営を考えながら見守
ります。



「〇〇さん、来てない？」

生徒指導は先生がしますが、も
しも講師のお迎え係がまだ到着
してない……。そんな時は担
当コーディネーターからも声掛け
をします。



あとがたづけ

講師の小物や資料は大事に管理しま
す。子供たちにも手伝ってもらい
ながら後片付けも手早く



最終ミーティング

講師の方や先生方からの意見。
コーディネーター目線で見た課題
を出しあいます。見えてきた改善
点は次に実施する学校で活かさ
れます。



講師交流会

講師交流会では、キャリアセミナー
のビデオ視聴や講師情報交換など
を行い、キャリアセミナーをさら
にステップアップさせる機会として
います。

事例紹介3 たくさんのボランティアが活躍しています！



コーディネーターってどう？ 現役コーディネーター座談会

コーディネーターとして活躍中の皆さんが集まって、
ここだけの話し？本音をいろいろ話してくれました！



ようこそさん（仮）

本の読み聞かせボランティアから小学校専属のコーディネーターへ。気づけば5年目を迎え、当時のボランティアの仲間が今も最大の協力者。心強い存在です。



えみさん（仮）

PTA 会長を経験後、学校が好き！な気持ちからコーディネーターに。今年で6年目を迎え、複数の学校を担当して元気に奔走しています。



ちずるさん（仮）

統括的な立場で、各地域のコーディネーターの相談役もこなしています。しっかり者と言われますが、実はコーディネーターの皆さんに助けられています。



まさえさん（仮）

広い地域を担当するコーディネーターです。今日も西へ東へ愛車を駆使して向かいます。やはり「地域のおばちゃん力」が大事ですね。



ちずるさん

コーディネーターをしていて、普段なら接することがない90代とか、逆に10代の女子高生とか・・・今では気さくに話が出来るようになったし、人だけでなく地域の“知ってる”が増えました。



まさえさん

私は若いママ世代の親に近い年代。現役子育て世代と先輩たちを繋ぐ役目が楽しいです。幅広い年代の温かい目で子供たちの成長と笑顔を囲んで、皆で良かったねと言えるところがいいですね。



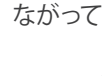
えみさん

ある子が「隣の家のおじさん、どんな人か知らなかったけど、ボランティアで来てくれたら優しい人だった」と。今の子って、隣りの家でも“遠い大人”なんです。子どもから見ると、地域には知らない大人が多い。そこをつなぐ楽しさがありますね。当の“おじさん”も自分を知ってもらえて子供たちとの挨拶が増えたり、変化が嬉しいと言っていました。



まさえさん

子供が学校の活動で知りあって「こういう人か」と分かったと、



ようこそさん

商店街もそうですよ。どうしても大きな郊外スーパーに行きがちけど地域の商店街の人たちが、町探検に来た子供たちに「君たちが繋いでくれないとこの商店街は将来はないな」と言ってくれるので、使命感に燃えて「絶対に買い物に行く」と。（笑）活動を通して子供たちが地元を身近に感じてくれることは大事ですね。近所の駄菓子屋さんが喜んでいたのが「子供に連れられて若いパパ、ママが来てくれた」ことでした。

学校から、 地域づくりにひろがる輪



ちずるさん

地域の伝統芸能もそうですね。後継者がいない神楽保存会を先生が授業で紹介して、子供たちが会に来るようになって…従来ならゲストティーチャー的に学校で教えておしまいですが、学校での働きかけから子供たちが自ら会に足を運ぶことで、良い循環ができています。保存会の人ほめ上手で「うまい!!」と（笑）。地域の大人にほめてもらえると、子供たちも俄然やる気が出てくるみたいです。



ようこそさん

お祭りも、学校にゲストで来た方が「今年は神輿の担ぎ手がいなんだよ」とお話することで「じゃあ、僕、担ぎ手やる」と。実際、地元のお祭りに子どもが参加するようになって、「せっかくだから」と商店街の人たちが、買わなくていいから子供限定でスタンプカードを作ってお店を巡って5つスタンプを集めたらかき氷をもらえる（笑）。地域が子供の傘下によって活気付きますよね。学校での教育活動は、子供たちの成長につながるだけでなく、子供たちの姿を見て、今度は大人たちが変わって行きますね。地域の教育力が高まると思います。

つなげる、つながるという 活動のやりがい



まさえさん

私が担当している学校の卒業生や元 PTA 役員、地域の方がボランティアで関わっていただくと「地元の方に学校に恩返しできて嬉しかった」と言われます。「お声がけて、学校につながること自体が大事なんだ」と感じました。



ちずるさん

特にご年配の方から「今は、子供たちと関わりのない生活しているけど、ボランティアすると子供たちと触れ合えて元気になる」と。ああ、これはコーディネーターとしてやりがいを感じ嬉しくなります。同時に、地域の中で子供との関わりって少ないんだなとも思いました。子供にとっても大人との関わりが少ないことですね。高校卒業すると若者は外に出て行き地元に残らないし、戻ってくる人も少ない。結果的に子供はどんどん少なくなりますよね。



まさえさん

地域の方にとっても、子供と触れ合うボランティア活動は大事です。関わる大人のやりがいや生きがいにつながることも多い。地域力をあげるためにも子供たちの存在は大きいです。



ようこそさん

つながると言えば、ゲストとして呼んだ卒業生 E さんと、当時作った卒業制作を「お便り」に写真と共に掲載したら、何年も地域を離れていた E さんの同級生が目にして「私が作ったものだ」と学校へ見に来てくれました。「お便り」1枚でも新たなつながりができました。



えみさん

学校には、世代や時代を超えてつながる要素がたくさんあります。自分の子供が在校中は保護者も学校に足を運びますが、卒業した途端、なかなか関わる機会がなくて…特に小学校は、地域の核であって、卒業生だけでなく保護者や地域の方の心の拠り所やふるさtoになる。その思いを受け止めて、今通っている子供たちのために先生方や保護者のお手伝いができたらいいなと思います。

コーディネーターの これから



ようこそさん

地域や学校内でコーディネーターの立場を確立してほしいです。活動するほど実は専門性が必要かなと。専門職として確立されたらかなりやりやすいのになと思うことが多いです。



ちずるさん

コーディネーターは裏方です。どんな役割なのか伝わらないと、協力を得るのに苦労します。私たちの活動や役割が見える化され、理解を得やすくなったらいいなと思います。



えみさん

今後は、地域を超えたコーディネーター同士のつながりが生まれたらいいなと感じています。コーディネーターは時に孤独な時もあるんですね。現場によって状況も違うし、子供たちもボランティアも先生もいろいろ。コーディネーターの判断が求められることも多いし、時に「あれで良かったのかな？」と悩むことも。そんな時に同じ立場のコーディネーター同士で情報交換できたら心強いし、とても励みになります。



まさえさん

コーディネーターの専門性やつながりの問題もありますが、まだまだ活動そのものの仕組みができていなくて、自治体の中で活動の地域格差も課題です。ここの地域は活発で、ここはあまり…そういう格差が結果的に子供たちの学びや地域力の格差につながっていきます。教育格差、地域格差をなくせるよう、コーディネーターとして宮城の子供たちに関わっていきたいと思います。

地域学校協働活動推進までの動き

「地域学校協働活動」の推進に至るまでの国の動きと宮城県の動きを連動させてご紹介します。

太字：法律等 「」：具体的施策、事業 □：押さえておきたいキーワード

	国の動き	宮城県の動き
平成 17 年度		【みやぎらしい協働教育】 「協働教育推進事業」 地域と学校をつなぐ仕組み・組織をつくり、家庭・地域と学校の協働の取組を行政がしっかりと支えていく 協働教育推進事業 コラボスクール推進事業 起業教育推進事業
平成 18 年	教育基本法の改正 「学校・家庭及び地域住民等の相互の連携協力」の規定が新設	
平成 20-22 年度	文部科学省「学校支援地域本部事業」 学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子供を育てる体制を整えること。学校教育の充実、生涯学習社会の実現、地域の教育力の向上	「学校支援地域本部事業」
平成 23 年度	文部科学省「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」	【みやぎの協働教育】 「協働教育推進総合事業」 家庭・地域・学校が相互に連携し支え合いながら強い絆で協働し、子どもを育てる仕組みづくりを積極的に推進して家庭・地域の教育力の向上を図り、地域全体で子どもを育てる体制の整備を図る 協働教育基盤形成事業 協働教育普及振興事業 教育応援団事業 協働教育プラットフォーム事業 (・コーディネーターの配置・家庭教育支援・地域活動支援・学校教育支援)
平成 27 年 10 月 平成 27 年 12 月		「みやぎの協働教育」の今後のあり方（意見書） 『協働力』の育成 コミュニティづくりや地域おこしを進めるためには、「地域課題に対して主体的に働き掛け、多様な人々と協働しながら課題を解決する力」が地域に求められる
平成 28 年 1 月 25 日	中央教育審議会「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）」 地域学校協働活動の推進と地域学校協働活動本部を全国に整備	
平成 28 年 12 月 平成 29 年 3 月	文部科学省『「次世代の学校・地域」創生プラン」策定 中央教育審議会（答申） 社会に開かれた教育課程の実現 社会教育法の改正 地域学校協働活動を実施する教育委員会が地域住民等と学校との連携協力体制を整備すること、地域学校協働活動に関し、地域住民と学校との情報共有や助言等を行う「地域学校協働活動推進員」の委嘱に関する協定の整備 「地域学校協働活動」	第 2 期宮城県教育振興基本計画 策定 ～志を育み、復興から未来への創造へ～ 「宮城県協働教育推進総合事業」 家庭・地域・学校が連携・共同して子供を育てる環境づくりを掲げ、地域と学校が連携・協働の元、一体となって子供を育む「地域学校協働活動」の推進と、活動を支える「地域学校協働本部」の組織化 協働教育基盤形成事業 協働教育普及振興事業 教育応援団事業 放課後子ども総合プラン推進事業 地域学校協働活動推進事業 (・コーディネーターの配置、地域学校協働本部の設置・家庭教育支援活動・地域活動・学校支援活動・放課後子ども教室)

地域学校協働活動の推進に係る参考情報

- 学校と地域でつくる学びの未来（文部科学省・厚生労働省 地域学校協働活動のサイト） <http://manabi-mirai.mext.go.jp>
- 地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン（文部科学省 平成 29 年 4 月発行）
[http://manabimirai.mext.go.jp/assets/files/gaidorain\(tiikigakkoukyoudoukatsudounousuishinnimuketa\).pdf](http://manabimirai.mext.go.jp/assets/files/gaidorain(tiikigakkoukyoudoukatsudounousuishinnimuketa).pdf)
- 地域学校協働活動ハンドブック（文部科学省 平成 30 年 1 月発行） <http://manabi-mirai.mext.go.jp/assets/files/H29doyo/H29handbook.pdf>
- 地域学校協働活動パンフレット（文部科学省 平成 30 年 1 月発行）
<http://manabi-mirai.mext.go.jp/assets/files/H29kikaku/180118tiikigakkoukyoudoukatsudoupanhuretto.pdf>
- はじめよう！「地域学校協働活動」（宮城県教育委員会 平成 29 年 11 月発行） <http://www.pref.miyagi.jp/site/kyodo/issuelist.html>



はじめよう！やってみよう！地域学校協働活動
地域と学校をつなぐ コーディネーター応援 BOOK

平成 30 年 3 月発行

平成 29 年度 仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業費補助金
(地域学校協働活動推進事業 (NPO 等))

【ワーキンググループ】 50 音順 平成 30 年 3 月末現在

- | | | | |
|--------|-----------------------|------------------|------------------|
| 赤川 泉美 | 名取市教育委員会 | 生涯学習課 | 社会教育指導員 |
| 阿部 久美子 | 登米市教育委員会 | 米山地区協働教育コーディネーター | |
| 伊勢 みゆき | 特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク | 代表理事 | |
| 大場 綾 | 特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク | 事務局 | |
| 鹿野 恵美子 | 仙台市立東六番丁小学校 | 学校支援地域本部 | スーパーバイザー |
| 斉藤 誠太郎 | 一般社団法人 Ishinomaki 2.0 | 教育事業担当 | |
| 千葉 加代 | 登米市教育委員会 | 生涯学習課 | 社会教育指導員 |
| 波多野 ゆか | 大崎市 | 協働教育コーディネーター | |
| 松田 ゆう子 | 柴田町教育委員会 | 生涯学習課 | しばたっ子応援団コーディネーター |

発行 特定非営利活動法人 まなびのたねネットワーク

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町 1 丁目 6-22 シャンボラー一番町 704

TEL 022-707-0122 FAX 022-707-0497 E-mail info@manabinotane.net